

高機能換気設備の導入に

補助金が活用できます！ 3次公募開始！

環境省 令和3年度 補正予算

「大規模感染リスクを低減するための

高機能換気設備等の導入支援事業」のご案内



不特定多数の人が集まる飲食店等の業務用施設に対して、高機能換気設備（全熱交換型換気設備）をはじめとする高効率機器等の導入を支援することにより、新型コロナウイルス等の感染症の拡大リスクを低減するとともに、業務用施設からの年間CO₂排出量を削減する事業です。

対象事業

- 民間および地方公共団体の業務用施設等に対し、全熱交換型の換気設備の導入（更新・増設・新設）及び高効率な空調設備等の更新により、対象室内の換気量を現況換気量以上とし、導入前及び改修前の室もしくは施設に比して、導入後及び改修後CO₂排出量を削減できる設備
※既存の照明設備をLED照明に更新した際のCO₂排出量の削減量を加味してもよい（上限あり）
- 本事業で導入及び改修した設備の省CO₂（電気量・ガス量等）が測定できる室もしくは施設単位で、設備の導入前後及び改修前後でのCO₂排出削減量を算出すること。事業完了後に環境大臣宛に提出必要な事業報告書において、その実施状況の成果を報告すること。報告が無い場合、補助金の返還等の措置をとることがある
- 既に実施している事業、新築建築物・スケルトン建築物等の事業は対象外

対象施設

- 民間事業者（大企業も対象）の業務用施設等
- 地方公共団体の業務用施設等
建物の用途例：事務所、ホテル、病院、百貨店、小・中学校、飲食店、集会所等（裏面参照）

対象設備

- 全熱交換型換気設備（必須）（CO₂センサー搭載型は審査時に加点。換気設備とセットで自主的にCO₂濃度センサーを購入し、適正な換気量に自動制御する場合も加点。）
- 全熱交換型換気設備と同時に改修する場合の空調設備等（任意）
※LED照明設備は補助対象外

予算 補助金の 交付額等

- 予算：75億円の内数
- 補助率：2/3※
- 補助対象経費：設備費、工事費（補助事業設備の設置と一体不可分な工事に限る）
- 補助対象経費の上限：2,000万円（換気設備以外の補助対象経費の上限額無し）
※CO₂削減量のコスト対効果に基づく、補助対象経費の上限設定有り（詳細は裏面参照）
※CO₂削減量に照明設備の更新によるCO₂削減量を加味する場合、更新後の照明設備はLED照明に限る

執行団体 公募期間

- 執行団体：一般社団法人 静岡県環境資源協会（SERA）
http://www.siz-kankyoku.jp/2021hoseico2_kanki3.html
- 公募期間：<3次公募>令和4年(2022年)7月25日～令和4年8月31日

補助対象となる建物の用途

下表に示す民間および地方公共団体の業務用施設などを対象とする

用途	具体例	対象外建物の例	
事務所等	事務所等	住宅、工場、畜舎、自動車車庫、自転車駐輪場、倉庫、運動場、卸売市場等 高い開放性を有し、換気の必要のない施設・室	
ホテル等	ホテル、旅館等		
医療・福祉等	病院、老人ホーム、福祉施設、デイサービス、鍼灸・整体院等		
物品販売業を営む店舗等	百貨店、マーケット、理美容室等		
学校等	小学校、中学校、各種学校等		
飲食店等	飲食店、食堂、喫茶店等		
集会所等	図書館等		図書館、博物館等
	体育館等		体育館、公会堂、集会場、フィットネスクラブ等
	映画館等		映画館、カラオケボックス、ボウリング場等

補助対象経費の上限設定

CO₂削減量の補助金額に対する費用対効果を求める算定式から算定したCO₂ 1tあたりの削減コストが、120,000 [円/t-CO₂] を超える場合は、

補助対象経費 = 必要経費 × 120,000 [円/t-CO₂] ÷ CO₂削減コスト [円/t-CO₂] とする。

【例】経費2,200万円（換気設備1,000万円、空調設備1,200万円）

CO₂ 1tあたりの削減コストが240,000 [円/t-CO₂] の場合

- ・補助対象経費は2,000万円 × 120,000 [円/t-CO₂] ÷ 240,000 [円/t-CO₂] = 1,000万円
- ・補助金額は1,000万円 × 2/3 = 666.6万円

補助対象設備



熱交換率40%以上。非熱交換型換気扇やインバータ制御される送風機等は補助対象外



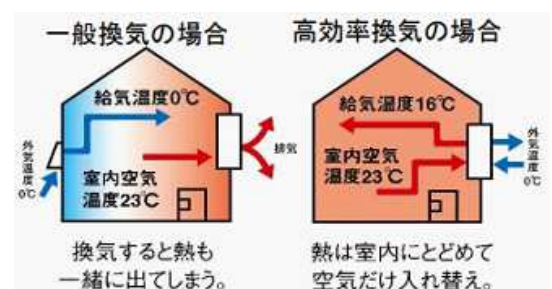
高効率機器に限る。付帯設備・機器は、空調設備の設置と一体不可分なものに限る。



国立研究開発法人建築研究所が示す冷房効率区分（い）を満たす機種に限る。

高機能換気設備の特長

一般換気は排気した分の外気を取り込むため、夏は暑い空気、冬は寒い空気が入り込んでしまいます。一方、高機能換気は、給気・排気ともにファンにより行います。併せて熱交換を行うため、外から取り入れる空気を室内の温度に近づけながら給気することができ、室内の温度変化を抑えることができます。



（本ご案内の詳細は、執行団体発行の公募要領にてご確認ください）